

混沌とした中から

Windows Vista (1)

Windows XPが登場したのは2001年。気づいてみるともう5年たっていました。Windows 98が1998年、Windows 98 SEが1999年、Windows Meが2000年とWindows 98からのOSの登場の仕方からすればいぶん長期であったように思います（この間にWindows 2000というのもありました）。そのWindowsの新版Windows Vistaが今年出るようです（ニュースで来年になったような話があります）。ところで、Windowsには個人向けのWindows 95の系統と企業向けのWindows NTの2つの系統があり、統一されたのがWindows XPで個人向けのPersonalと企業向けのProfessionalがありました。現在発売されているのはもちろんWindows XPですが、パソコンに触り初めて二十数年もたっているとなんだかまだ慣れていない気がするのはどうしたものでしょうか。そういえばOfficeについてはいえば2000がまだ元気で、XPというのもあったのですが今は2003になっているのですが、周りはまだ2000だったりしています。それはそれとしてWindows Vistaの登場の話ですが、このOSはだいぶ前からLonghornというコード名で開発されていたもので、開発もちろんWindows XPの発売前から始まり、当初は2004年ぐらいには出荷される予定だったものです。グラフィックを強化したものというのが当初の予測でした。マイクロソフトはそれまでのOSのサポートももちろんやりながら新しいOSの開発を行っています。だいぶ前に読んだ記事によるとマイクロソフトは現在のOS対応と開発のOS対応のそれぞれのチーム分けがされていて、新しいOSが発売されるとそれまでのOSの対応のチームが次のOSの開発に着手するようになっていたというのがありました。そのために現在のOSのしがらみに影響されることがなく開発ができたり、開発のスケジュールに影響が無い様になっているとなっていました。

ではどのようなOSなのでしょう。そのWindows Vistaの特徴は大きく3つあります。1つはユーザインターフェース（UI）の刷新、2つ目は検索機能の充実、3つ目はセキュリティの向上です。UIの刷新の着目点はユーザの使い勝手の向上です。誰もが迷わず快適に使えるようにUIの改良に力を入れました。次の検索機能ですが、これはハードディスクが大容量化するにしたがって必要なファイルがどこにあるか探すことが難しくなったことに対する1つの解です。フォルダの階層をたどって目的のファイルやアプリケーションを探す代わりに検索で探し出そうとする検索機能です。最後のセキュリティの向上ですが、これまでのWindowsでは何かと問題のあったセキュリティ。パッチで対処してきたのがこれまででしたが、今回は重要なソフトウェアの実行に制限を加えたり、悪意のソフトウェアを検知する機能を盛り込みました。合わせて同梱されるブラウザのIE 7もセキュリティ向上が図られました。内容の詳細は次回以降に回すとして、これ以外の変化として内部構造が変わったことがあります。特に重要なのが「WinFX」という名前のAPI（アプリケーション・プログラム・インターフェース）です。APIはOSがその上で動くアプリケーションに提供する機能で、これまではWin16（16ビットCPU対応）、Win32（32ビットCPU対応）でしたが、マイクロソフトの推進する「.NET Framework」をベースにした実行機能で、Win32も引き続き提供されることになっている。

(次回へ続く)

(今週の情報誌から)

○日経エレクトロニクス 3月27日号

解説 キャリアが描くデジタル家電進化のシナリオ

→ネットワークがデジタル家電への対応で模索が始まっている。これまでの通信業者（キャリア）が収入源の確保のために1つのシナリオを作ろうとしているが簡単にはいかない。確かにこれまでの電話はIP電話に移ってきているが、デジタル家電への対応で巨大なネットワークが構築され、これまでの通信網が情報ネットワークに変化しようとしている。通信機器もこれまでのように通信業者がその使用を決め開発するのではなく、ハードウェア、OS、ミドルウェア、アプリケーションソフトウェアそれぞれに仕様が決定され「安くて高品質」が求められる。

○日経パソコン 3月27日号

特集 さらばケーブル

→家庭でも普及しているLAN。端末が増え、プリンタもLANに接続するとLANケーブルが邪魔になる。一気に無線化してしまおう。ついでにネットワークディスクもDVDレコーダも。

○NETWORK WORLD 5月号

特集 メールセキュリティ完全対策ガイド

→ウィルスの侵入、データの漏洩など脅威の根源になってしまうメール。外部からの脅威への対処方法をはじめ、データの「暗号化」、情報漏洩対応の「保存」、「検閲」など、万全なメールシステムを構築するためのガイド。